

童

2019年9月27日。

あちこちで秋の訪れ、稲刈りの時期がやってきました。大地の田んぼでも、立派なカブトムシとクワガタが、大切な稲を日夜問わず、守ってくれています。春のチェーン除草がすごい効き目を発揮してくれているようで、まったく草が生えず、素晴らしい無農薬の田んぼとなっています。台風で、稲が倒れないことを祈るばかりです。

また、もう一つの田んぼは、近所でも評判の、黒米もち米うるち米のまさににじみ絵のような3色の色合いとなっています。黄金色の田んぼに、くっきりと黒いじゅうたんが敷かれているようです。はじめての黒米栽培で、穂が出るのが遅く、病気が気候のせいでは今年駄目かと思っていた矢先に、ぼつぼつと黒いものが発生してきて、「ああ、雑草が次々に発生してきたか」と心配していたのが、それが黒米だったから驚きです。そして、みるみるうちに、黒色の田んぼになってしまいました。黒米もち米の仲間なので、隣と普通のもち米と合わせて収穫が楽しみです。

大地の自然農2年目の畑からも、ジャガイモや枝豆やキュウリなどが収穫されています。ジャガイモは、今年の5倍から10倍以上。そして、先日収穫したばかりの枝豆のおいしさは絶品でした。これから、どんどん取れるので楽しみです。

連日、ブドウ、ナシ、リンゴ、柿、そして、栗など、まさに秋の味覚を楽しんでいます。自然からの贈り物に感謝です。

そう言えば、秋の味覚の代名詞、マツタケ。先日、娘の働く薬師岳に、キノコ博士を父に持つ大地OB母子と一緒に登山に出掛けた時のこと。その母子も、さすがにキノコに詳しく、いろいろなキノコを見つけながら歩いていると、大地OBの25歳の娘さんが、登山道脇のツガの木に生えているキノコを見て、これマツタケじゃないかなと言って収穫。その時、上部から刈払機で登山道を整備して来た人と遭遇（娘の山小屋の社長で顔見知り）。挨拶して、「これマツタケですか」と聞いたところ、「よく見つけましたね、ちょうどこれから取りに行くところでした」とちょっと残念そうな表情。でも、その夜の夕ご飯（山小屋の人たちと一緒にの賄いごはん）には、とれたてのマツタケごはんを頂き、ほっとしました。ツガマツタケと言って、外国では普通らしいです。



秋の味覚、これからたっぷり楽しみましょう。

【ホテルママ】

ホテルママとは、ドイツ語で、上げ膳据え膳の実家という意味らしいです。親から自立しない子ども、親元を離れられない子どもを、ホテルママから離れられないというようです。

8050問題をご存知ですか。40歳から64歳までの引きこもり人口推定61万人、15歳から39歳までのそれは54万1千人とされています。もちろん、日本の現状で、50歳前後の方が上回っていることが注目です。つまり、引きこもり当事者が50代になり、親が80代になると、収入や介護の面で問題が発生する問題が、8050問題です。

この引きこもり問題は、ドイツを含むヨーロッパ諸国では、ほとんど聞くことがないということです。その理由は。例えば、ドイツの子ども（成人年齢18歳）は「成人したら家を出ること」を楽しみにし、親もまた然り。子どもは「大人になったら家を出て好きなように生きる」と思い、親もまた「18歳になるまでは、親の言うことを聞きなさい!」という育て方、しかり方をするようです。つまり、親、子ども双方が「子どもが成人になるまでの我慢」だと思っている。これは、冷たい感じですが、それだけ「子どもの自立」が重要視されているからでしょう。

そして、親子共々お互いに、成人する時期を楽しみにしていますから、親は成人した子供の面倒を延々と自宅で見ると気がないということです。なぜなら、夫婦の仲がよければ、子どもが自立した後は、夫婦で2人の時間を過ごしたいと思うのが一般的ということです。シングルの親は、子どもが成人した後は、恋愛活動に、また自分の趣味や旅行に費やす親も多いらしいです。日本と基本的に違うのは、欧米社会は「カップル社会」であり、何歳になっても「カップルでいて、恋愛をしていること」が重要視され、「成人した子どもを面倒見る」ことはあり得ないということです。

さらに、「成人したらなるべく早く家を離れるのが健全」という共通社会認識の上で、親元を離れた後は、家族の誕生日や行事やクリスマスなどに家族がよく集まることは、絵本や本やニュースなどでよく見聞きしますね。「親と仲が悪いけど、大人になっても一緒に住む」ことなどはないようです。

青ちゃんも、やはり早く大人になって好きなことをしたいから、家を出たかったですね。家は、精神的にも窮屈だし、好きなことができないし、親は「うっとおしい」し、家出したいほど厳しかったりはしませんでしたけど、居心地は、実家はやはり良くなかったですね。両親は、昭和初期の生まれで田舎の農家でしたから、ハイカラな恋愛のカップルなんてことは、どこを見てもあり得なかった時代ですから、欧米とは違います。親は農業などで、忙しく、大人優先で、現代のように、食べるもの、遊びに行くことなど子ども中心、子ども優先ではなかったの、その意味で、家が子どもにとって、最高に居心地がいいと感じれる場所ではなかったのです。

そして、やはり、親に食わせてもらっているのですから、親や先生の言うことは聞くことは絶対、いやなら出ていけという感じですから、早く、自立して好きなことをしたいと思っていた意味で、自立するまでは親の言うことを聞いていなければ我慢していました。

大地のセミナーでも、母親は子どもと恋愛をしていて、父親は会社と恋愛しているということを毎回話しています。子離れ親離れの問題やその時期、子どもが出て行った後の母親の喪失感 熟年離婚、パラサイトシングル問題など、何か、引きこもりと共通の要因が見えてくるのではないのでしょうか。

何でも子ども優先、子ども中心で、子どもにとって居心地の良い家庭、（お父さんや夫婦にとっては？）居心地や良すぎれば出ていきたくないですね。そして、親の言うことを聞かせるのではなく、子どもの言うことを聞く家庭、居心地満点。子どもの嫌なこと、家の仕事、掃除、片付け、厳しいことなどを避けていけば最高の場所。お母さんは、いつも面倒を見てくれるし、会社と恋愛していないお父さんは、イクメンだったり友だちパパだったり。良いことだらけ・・・・・・・・。

青山家4人、さぞ家は窮屈（家の大きさは豪邸ですが）で、父親はうっとおしいので、全員家を出たくてしょうがなかったらしいです。部屋はたっぷりあるのに、祖父母の家の2階で一人暮らしをしていた子ども達。そういえば、一人が進学などで家を離れると、順番で一番いい部屋が次の子どもに与えられ、離れた子どもは、帰る部屋を失ってしまうシステムも良かったのかも。まあ、どちらにしても、皆、自立しすぎるほど、とんでもない世界に自立してしまったんで、心配はとんでもないぐらい大きかったかも。現在進行中・・・・・・・・。うれしいことに、引きこもり問題とも、今のところ無縁だし、8050問題も大丈夫か。

恥ずかしさを隠さずに言うならば、青山家もカップル社会のような気がします。親も子ども夫婦も・・・。